



# つなげ!きずなのバトン 優勝目指して全力疾走!

21日(日)運動会を無事に開催することができました。開会式での入場行進から始まり、児童会を代表して武田優聖さんが堂々と選手宣誓をしてくれました。1、2年生は80m走、3年生以上は100m走を行い、どの学年の子どもたちも一生懸命に走り抜こうとする姿が見られました。

低学年の「ダンスたま入れ【①赤②青③黄】」、中学年の「ドキドキワクワク宅急便【①青②黄③赤】」、そして高学年の「安心してください 速いですよ リレー【①赤②青③黄】」。これらの種目は点数化されませんので、子どもたちが楽しみながら競技に参加し、仲間に声援を送ることができたようです。好プレー珍プレーも多く見られましたね。

色別総当たりの綱引きは、ほとんど練習できなかつたのですが、各色のメンバーが力を合わせての対決となり、【①黄②赤③青】の順位でした。



全員リレーの順位は、低学年【①青②赤③黄】、中学年【①青②黄③赤】、高学年【①黄②赤③青】という結果になりました。昨年は室内での開催でしたので、カーブが曲がりにくくて苦労していたのですが、今回はグラウンドで思い切り走ることができました。どこが勝ってもおかしくない展開でしたね。

3年ぶりの応援合戦、6年生を中心とした各色の発表はいかがでしたでしょうか?腹の底から声を出す機会が少なくなった今、エールやダンスなどで自己表現しようとする子どもたちの姿に感動しました。最後にみんなで踊った大内音頭。この地域に長く受け継いでもらいたい踊りです。

総合成績は、優勝・青組(249点)準優勝・黄組(228点)第3位・赤組(220点)となりました。応援賞は青組「大賞・リズム&ビート賞」、黄組「ユニークパフォーマンス賞」赤組「パワフルシャウト賞」という結果です。たくさんの来賓の方々や、この春に転任された鈴木誠・前教頭先生、大場則子先生もお見えになり、岩谷っ子たちの頑張りを褒めてくださいました。



## 伊藤 太一(6年)

応援合戦の練習の時は声が全然出なかったり、振り付けもリズムが合ってなくてまとめられなかったけど、周りの6年生が3~5年生に教えるのを手伝ってくれて、とても心強かったです。先生たちも手伝ってくれたりアドバイスをくれたりしたのもありがたかったです。総合では3位という結果だったけど、皆で全力を尽くすことができたので、団長をやっている良かったなと思いました。みんなをリードするという経験は初めてで、あまりうまく説明できないときもあったけど、5年生が3、4年生に伝えてくれたので最終的にはちゃんと息が合ったのもうれしかったです。この経験を生かして、何事も一人で全部やろうとしないで、周り協力して物事をうまく進めていきたいです。

## 鈴木 皆実(6年)

小学校最後の運動会でした。練習はみんなで協力してたくさんがんばって、赤組にも青組にも負けることのないようにしました。本番でも全力を出して優勝目指して黄組のみんなでがんばりました。でも、青組に負けてしまいました。それでも今日の運動会で学んだことはたくさんあります。

1つ目は「協力をする」ということです。運動会には様々な種目があります。その一つ一つに全力を出さなければなりません。例えば、リレーではリードをどれくらいにすればいいのか、応援をそろえるにはどうすればよいか、全て協力することが大事なのだと分かりました。

2つ目は「一人ひとりが全力を出す」ということです。リレーでみんなに越され、自分が一番最後になったときなど「負けたからもういいや」と途中であきらめるのではなく、最後まで力を抜かず走り抜くことこそが大事だと分かりました。最後まであきらめずに行うことは、これからも勉強や他のことでも心がけていきたいです。

PTA環境体育部の方には朝の準備や競技のお手伝い、広報部の方には写真撮影、三役の方には賞状授与と応援の審査をしていただきました。誠にありがとうございます。競技中の写真は、後日紹介いたします。

# 「HSC」ってご存じでしたか？

これは、保健室の畑山昌子先生から教えていただきました。メディアでも取り上げられるようになり、少しずつ認知の広まりを見せるこの言葉は、「Highly Sensitive Child」を略したもので、「人一倍敏感な子」と呼ばれているそうです。ほぼ5人に1人が当てはまるというHSCについて紹介します。

## ★HSCとは「感じる力がとても強い子ども」のこと

「ささいな変化なのに、ずいぶんよく気がつくなあ」「他の子は平気なのに、どうしてそんなに嫌がるんだろう」「癩癩を起したり、心をしばませたり、感情の反応がとても大きい」そんな子どもさんが、身近にいらっしゃいませんか？

子どもさんの反応がほかの子と比べて強いと感じられると、心配になったり、ついつい「そんなこと気にしないの」「みんな頑張っているんだから、あなたもがんばらなきゃ」「どうしてそんなふうに怒るの？泣くの？落ち込むの？」といった言葉で接してしまいがちです。

でも、もしかしたらそれらの反応は、HSCという生まれ持った気質によるものかもしれません。感受性、つまり感じる力がとても強いのです。湧き出した感情を、自然に、ありのまま表現することを否定されてしまうと自己肯定感が削がれてしまいます。

HSCについての知識、適した接し方がわかれば、子どもさんの敏感さや繊細さで悩んだり、子どもさんを否定する必要がないことがわかります。



©DESIGNALIKE

【次号に続く】